

## 宮島歴史民俗資料館：展示館 C

旧江上家邸の隅にある小さな土蔵には、木工関連の展示品が並んでいます。木工は地元住民の間で発展し、1800 年代から 1900 年代初期まで宮島の重要な産業でした。しかし、島の木のはほとんどは大名（領主）の所有物だったため、住民は島での木の伐採を禁止されていました。その結果、地元の木工職人が使う木材のほとんどは、本土から持ち込まれました。

展示品の中には飯杓子もあります。1700 年代後半に宮島で発明されたと言われ、現在は全国で使用されている飯を混ぜたり、すくったりする時に使用されるしゃもじです。細かい彫刻で装飾されたさまざまな盆や食器、伝統的に土産や記念品として販売されている巨大な飯杓子も展示されています。工芸品を鑑賞するだけでなく、展示されている伝統的な口クロやその他の道具から木工の製作工程について学べます。